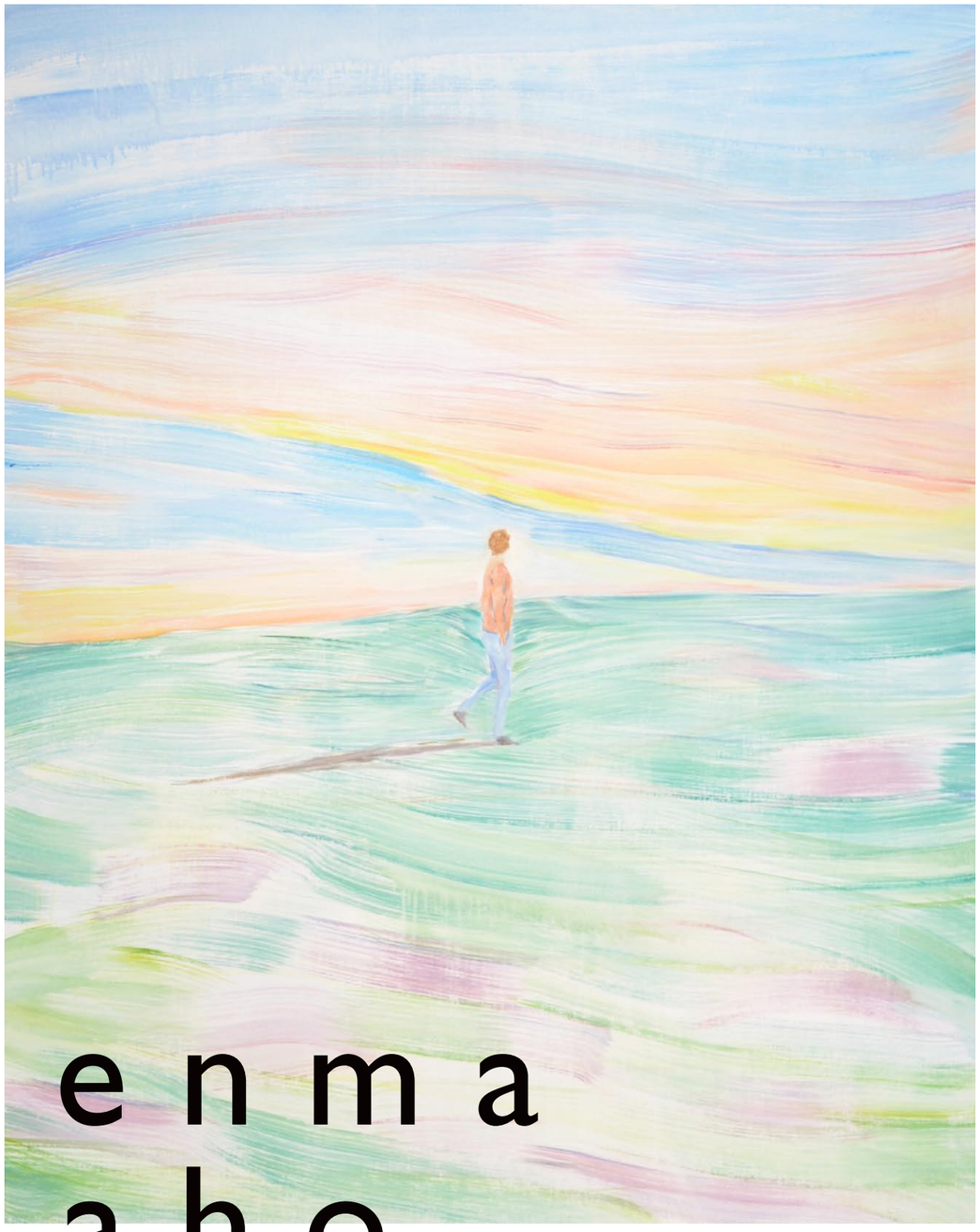
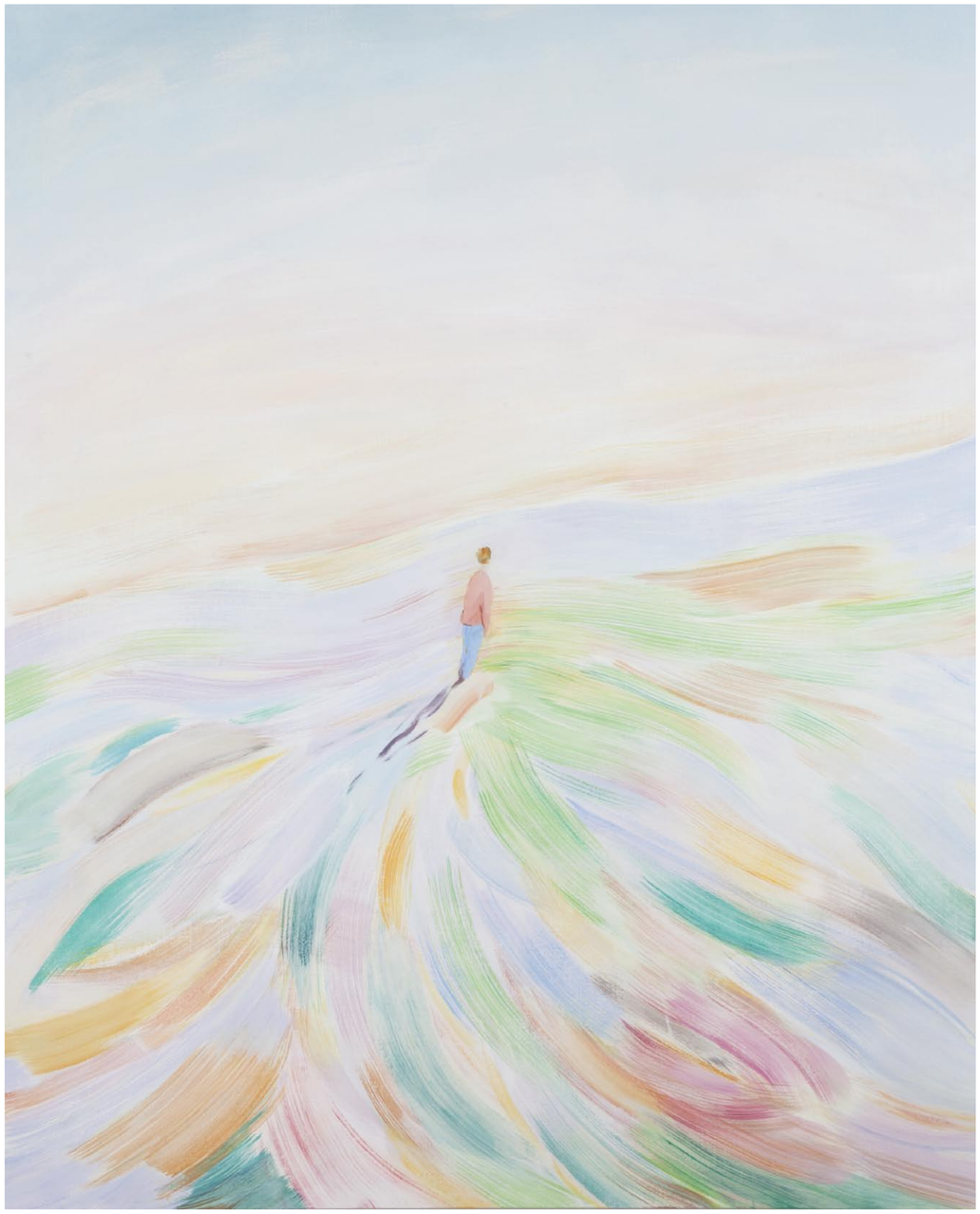


1



2

Genma Naho

源馬菜穂展

2014年1月31日（金）～ 2月25日（火）　水曜日休館　※2月23日（日）のみ臨時休館

1.「contact」 2010年　1620×1300mm　油彩、キャンバス　清須市はるひ美術館蔵
2.「far」 2013年　1620×1300mm　油彩、卵テンペラ絵具、キャンバス

——春に源馬さんの作品を拝見したとき、季節的に作品と現実を往来するような心持ちになって、すごく清々しかったです。
「contact」（2010）では、以前の作品と描き方に変化がありました

源馬：絵を描き始めて10年ほどになりますが、以前までの作品はアカデミックな勉強の延長線上で進めてきた感じがあったので、どこかで絵はこう描くものだというような思い込みを持っていました。
あるとき、このまま描いていてももう先に進めないというような感覚があったので、開き直って自分の見たい風景を、等身大の自分の感覚のみで絵にするためにはどう表現したらいいのか、もっと素直に絵が描けるようになりたいという思いから選択していった結果、今のような描き方に行き着きました。
例えば、以前は画面を構成してもたせるためには何が必要なのかを考えていたのですが、自分がどんな絵を見たいのかを考え始めたら、本当に必要なモチーフや必要な手順だけが残っていきました。

——流れるような筆の大きなストロークの思い切りの良さが気持ちいいです

源馬：「contact」（2010）などの大きい作品だと、筆を入れようと画面に近づくと全体が見えなくなるので、一発で決めていく緊張感があります。
コントロールしきれないところも受け入れて、出来てくる画面と対話しながら一回一回の判断を積み重ねています。最初に頭の中で生まれたイメージの緊張感や印象を持った状態で画面に向かえるようにしたいので、迷いが生まれたり、イメージが薄れてしまう前に描き切るというのが今のやり方です。集中力がなくなったときに、ここちょっとおかしいかな、このままだとどう見えるだろうかと客観的な視点を持ち込んでしまうと、自分の絵ではなくなってしまうので、自分の判断だけで描くようにしています。風景のイメージを出すのには時間をかけますが、実際に描いている時間はとても短いです。

——透明感のある明るい色彩が印象的です

源馬：以前はモノトーンで描いていたので、私には明るい色彩は使えない、この色は使えないとか限定してしまうところがあったのですが、そういったことも一つ一つなくしていく作業が、今の作風になってから進んでいるように思います。油彩ですが、水彩のような扱い方をしているので、混ぜ方や塗り重ねの少しの厚みで色の透明感が消えてしまわないように気をつけています。

——風の動きや草の波が感じられる美しい余白の中に一人ぽつんと立っている人物はご自身でしょうか

源馬：自画像ではないんですが、自分の思い描く心象風景なので、描くときはやはり絵の中の人物になったつもりで描きます。自分が描いているときと同じように、作品を見る方が絵の中の人の気持ちになって同じ景色を感じられるような不特定性のある人物にしようと思っています。
こう見て欲しい、こういう絵を描きましたという絵ではなくて、人のその時々の気持ちとか、空間とか時間で違って見えるような、ゆったりとした余白のある絵がいいと思っています。

——タイトルもシンプルですがとてもインパクトがあります

源馬：タイトルもイメージが限定されない、主張しないものが良いなと思っています。「contact」（2010）を描いた頃から「むこうがわ」という言葉が自分の中にあって、始めの漠然としたイメージからもっと奥へ手を伸ばして探っていくように描いています。まず画面に色を置き、その色からまたイメージして、この絵がどうなっていくか探り探りで進めます。初めにあるイメージと、描くという行為のバランスによって意識のむこうから絵が出てくるような感じです。自分でも描いた後に絵を見て、こんな風景になったんだなって思います。

——具体的にイメージしている風景はありますか

源馬：実際に自分が見た景色をそのまま絵にすることはなくて、普段見る景色やその移り変わりなどが体感としてストックされている中から、キャンバスにむかったときにそのときの自分の気持ちと合わせて、イメージとして出てきます。絵を描くために資料を集めたり、写真を用意したりすると逆に自分の描きたい物がわからなくなってしまうのでやらないようにしています。普段、自然に見ていいなと感じたものが大事だなと思っています。小さい頃は新緑の季節なんて気にもしなかったんですが、年を重ねてきてから最近とてもきれいに感じるようになりました。

——普段の生活をすごくていねいに過ごしているように思います

源馬：一人でいるときに良い音楽を聴きながら風景を見ていると、今のこの感覚をそのまま絵に出来たらいいなと思います。目に見えないもの、自分が大切にしている気持ちや感覚が絵と直結できるのが理想です。単純ですが、嫌なことなどが頭の中にあって荒れた感情で描くとひどい絵になってしまいます。失敗作を何枚も描きながら余分な気持ちや考えがなくなった頃に、ようやくいいかなと思う絵が描けます。絵には嘘をつけないなといつも思いますし、そのことに助けられて絵を描いている気がします。

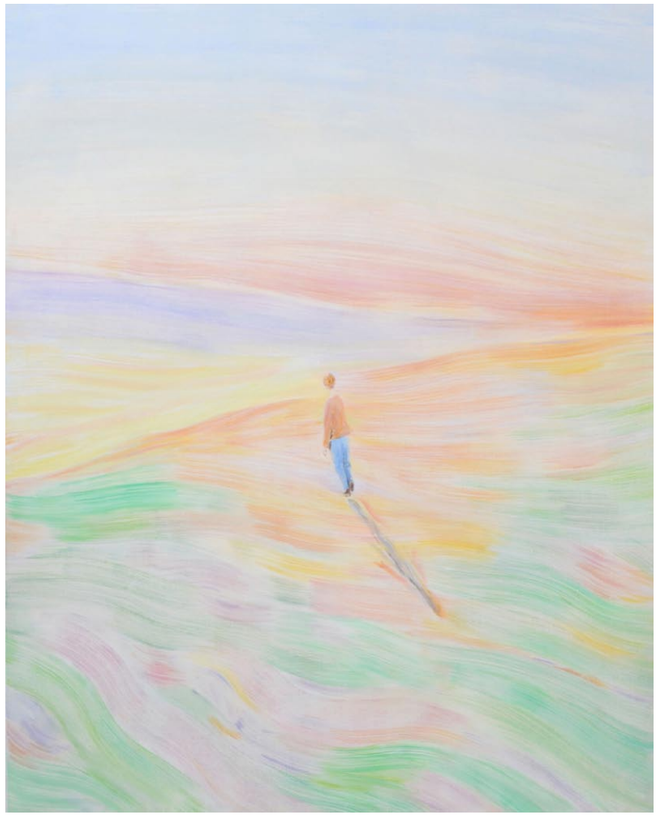
——好きな作家はいますか

源馬：ジョルジョ・モランディが好きです。同じような静物をずっと描いていますが、どの絵にも飽きない絵としての魅力があるので、とてもあこがれます。これから自分がどんな絵を描いていけるかわかりませんが、いつも自然に変わっていけたらいいなと思います。

インタビュー：大橋恵美（LIXILギャラリー）
2012年12月6日

LIXIL ギャラリー
LIXIL GALLERY
東京都中央区京橋3-6-18 東京建物京橋ビル LIXIL：GINZA 2F
phone 03-5250-6530
制作発行：株式会社LIXIL　デザイン：SOUVENIR DESIGN INC.
http://www1.lixil.co.jp/gallery/

「pray」 2013年　273×220mm　油彩、卵テンペラ絵具、キャンバス



「bless」 2013年　1620×1300mm　油彩、卵テンペラ絵具、キャンバス

「come I」 2010年　270×220mm　油彩、キャンバス

「dream」 2011年　330×240mm　油彩、キャンバス

源馬菜穂

Genma Naho

ポートレート写真／撮影：大須賀信一

1985　長野県生まれ
2010　愛知県立芸術大学美術研究科
　　美術専攻油画・版画領域修了
2011〜　同大学非常勤講師

個展

2007　「森と人」ギャラリー早蕨／名古屋
2008　「STORY」ギャラリー早蕨／名古屋
2009　「oto」ギャラリー早蕨／名古屋
　　「Naho Genma exhibition」gallery N ／名古屋
2010　「background」gallery TAiGA ／名古屋
　　「トーキョーワンダーウォール都庁2009」都庁／東京
　　「LIGHT」ギャラリー芽楽／名古屋
　　「空の音」gallery N ／名古屋
2013　「ALA Project No.20 Naho Genma」ART LAB AICHI 1F ／名古屋

主なグループ展

2009　「Landscape」GALLERY CAPTION ／岐阜
2010　「REAL,REALITY」YEBISU ART LABO ／名古屋
　　「アートアワードトーキョー丸の内　2010」丸の内行幸地下ギャラリー／東京
　　「Paintings」GALLERY CAPTION ／岐阜
2011　「Paintings：02」GALLERY CAPTION ／岐阜
　　「Outline2」KAGIYA HOUSE ／静岡
　　「Outline2-nagoya」gallery N ／名古屋
　　「Windscape 風の風景」KOKON TOWER Headquater 1F_space K ／ソウル
2013　「collection/selection:04」GALLERY CAPTION ／岐阜
　　「1984のアトリエ」茅野市民館ギャラリー／長野
　　「キュービックミュージアム・プロジェクト＋α」ART LAB AICHI 3F ／名古屋
　　「清須市はるひ絵画トリエンナーレ アーティストシリーズ vol.71 源馬菜穂展」清須市はるひ美術館／愛知

受賞歴

2009　第6回はるひ絵画トリエンナーレ　入選
　　トーキョーワンダーウォール2009　トーキョーワンダーウォール賞
2011　トーキョーワンダーシード2011　入選
2012　第7回はるひ絵画トリエンナーレ　大賞